

平成12年度第2回生物物理学会運営委員会議事録

日時：12月4日13：00～19：15

場所：愛知県中小企業センター7階1会議室

出席者：郷会長、七田副会長、木下副会長、阿久津、片岡、木寺、桑島、田之倉、月原、豊島、難波、船津、倭、由良各運営委員、石渡編集実行委員長、市川 H11 年会実行委員長、大木 H12 年会実行委員長、柳田 H13 年会実行委員代表、太和田九州支部長、河合、永田両会長秘書

欠席者：白井、曾我部、都甲各運営委員

報告事項：

1. 運営委員会出席対象者について (郷) 資料1

郷会長より運営委員会の出席者の確認が過去の議事録にもとづいて行われた。出席者のうち運営委員は会員の選挙で選ばれており、運営委員が議決権を持つ。編集実行委員長は自動的に運営委員になるわけではなく、選挙で運営委員にならなかった場合は、オブザーバーである。年会実行委員長は年会に関する連絡を密にするために、運営委員会に出席することになっているが、オブザーバーである。各支部長もオブザーバーである。

2. 平成11年度年会総括 (市川) 資料2

市川平成11年度年会実行委員長より年会の最終報告が資料にもとづきなされた。資料への補足として以下があげられた；

- ・シンポジウムに落ち着き感があったのは会場の移動が難しかったため、ざわざわしなかったことによると考えられる。
- ・ショートの評判は学生には不評、年配の方には好評であった。
- ・本年会で一番大きな支出は会場の利用費であった。
- ・バスでの移動があったので、参加者全員に保険をかけた。
- ・託児室（和室の楽屋：10畳二間）で1人の子供を預かった。
- ・寄付を出してくれた企業に、黒字が出たことを言いにくい。そこで黒字分をどのように利用するかを企業に具体的に説明したい。

郷会長より黒字の約60万円を有効に使うことが提案された。箕浦会員より託児室に関する報告を学会誌に載せてほしいと依頼があり、石渡編集実行委員

長が会誌「談話室」に載せることを確認した。郷会長が箕浦会員に石渡編集実行委員長に連絡を取るよう連絡することになった。

3. 平成12年度年会準備状況 (大木) 資料 (当日配布)

大木平成12年度年会実行委員長より以下の準備状況報告が資料にもとづきなされた。

- ・実行委員会を11月30日立ち上げ、職務の分担をした。ホームページがすでに立ちあがっており、Web で要旨を登録する予定。ホームページサーバ用パソコンを10万円で購入した。

- ・要旨の受付は UMIN (大学病院の医療情報ネットワークを利用した学会要旨受け付け専用システム[無料]) を導入する。これを導入すると、7月4日正午 (例年より遅く) が要旨の締め切りにできる。木寺委員および片岡委員より3年前の年会における要旨受け付け失敗の例が示されたが、このシステムは専用システムなので多分大丈夫であろうとの回答がなされた。今回の導入結果を見てから、来年以降どのようにするかを決めることが承認された。太和田支部長より原稿の締切から要旨集発送までの時間が短いとの危惧が示されたが、市川平成11年度年会実行委員長、石渡編集実行委員長より要旨発送が遅れることはないだろうと発言があった。

- ・会場として旧教養部を仮予約した。正式には4月1日に予約する。

- ・年会の支援は生協に頼む。弁当の販売、休憩室の設備も生協に依頼する予定。

- ・ホテルもすでに押さえた (宿泊料が6400円から9500円)。

- ・遠距離の飛行機は料金がまだ決まらないので資料として出すことができないが、随時ホームページに掲載する予定。

- ・機器展示はエー・イー企画の仙台代理店である小田原企画を使う。東北大学における機器展示の経験がすでにあるので問題はない。

- ・機器展示用にエー・イー企画が電源車を導入する。口頭発表で OHP を全室で使うと電力が足りなくなる可能性もあり、その場合は機器展示用に導入した電源車を使う。

- ・参加費は九州の年会と同額に設定した。振込先郵便口座をすでに開設した。

- ・懇親会はすでに生協がテーブルの配置まで計画している。メイン会場に400名、隣の部屋に100名。ひとつのテーブルを10名から20名で囲む形式

にする予定。

- ・シンポジウムは2日目の午前中に予定している。大きな部屋3個で一般的なシンポジウムを、小型の部屋11個で専門のシンポジウムを行ことが可能。ミニシンポも可能（100人部屋が数個）。
- ・各部屋にモニターが設置されているのでビデオセッションにも対応できる。
- ・公開講演会に向けて科研費を申請（12月7日締め切り）する。
- ・託児所を開設することとした。

4. 平成13年度年会について （柳田）

柳田会員より平成13年度の年会は大阪大学吹田キャンパスで行う予定であると報告された。柳田敏雄、今井清博両会員が実行委員長をつとめることが報告されたが、柳田敏雄代表、今井清博実行委員長とし、運営委員会の案内は柳田代表に送ることが決まった。

5. 3年以上会費滞納者の自然退会について （月原） 資料4

督促状で催促してから3年経過の人が153名いることが月原委員より報告された。今年は例年より50名多い。昨年同様めばしい方に、会長または会長代理より連絡を取ってもらうことにする（昨年はその結果8名が復活した）。資料より、浅井会員（早稲田）、堀会員（オリンパス）、朴会員（理研）、富本会員（JT）、荒牧会員（福岡）、中島会員（理研）、壇会員（名古屋）、安中会員（千葉大）は復活の可能性があることが指摘された。他に復活する可能性がある会員を資料内に見つけたら、事務局にEmailで知らせることとなった。

6. 会員マスター繰越処理について （郷）

学会事務センターの年度繰越作業にともない、会費は今年度と同額であることを学会事務センターに連絡し、会費の値上げを1年間はしないということが報告された。

7. 第17期第6回生物物理学研究連絡委員会報告 （郷） 資料5

研連議事録にもとづき郷会長より報告がなされた。第4回国際生物物理学の準備状況、第3回東アジア生物物理学シンポジウムの準備状況およびファースト

サーキュラー配布に関するトラブルの説明がなされた。東アジア生物物理学シンポジウムはその必要性が研連で議論となり、地域会合の必要性が指摘された。東アジア生物物理学シンポジウムへのオーストラリア、インドの参加が研連で指摘され、郷会長より年会の国際化も視野に入れる必要があることが指摘された。

8. 物理学会へ科研費審査委員相互乗り入れの申し入れ (郷) 資料6

物理学会と生物物理学会で科研費審査委員の相互乗り入れを行いたいと、佐藤新物理学会長に申し入れたことが報告された。すでに松本前生物物理学会長が興地前物理学会長に申し入れたことではあったが、両学会会長が交代したので、再度申し入れた。なお生物物理研究連絡委員長からも物理研究連絡委員長に口頭で同様の件が伝わっている。片岡委員より、学振 DC 推薦のためにも相互乗り入れはぜひ実現してほしいとコメントされた。

9. 東アジア生物物理学シンポジウムについて (郷) 資料7

Second circular の申し込みが98件と出足が悪いことが郷会長より報告された。韓国側は日本の参加人数を気にしており、150人以上は second circular の申し込みが望まれる。若手には旅費援助を行うので、学生さんにも参加をすすめてほしい。最終申し込みの締め切りはまだ設定されていない。現在2つの旅行社に旅行日程・費用を問い合わせ中である。

10. 学会ホームページについて (倭)

各運営委員の役割分担をわかりやすくする方策を考えることを前回の運営委員会ですべて約束していたことが郷会長より説明された。郷会長および、倭、由良両庶務委員、永田、河合両学会秘書が検討した結果、役割分担を明らかにするホームページをたてることになった。倭委員よりホームページを現在作成中であると報告された。庶務、秘書の年間の役割と選挙、会誌の年間スケジュールが掲載されているが、各運営委員から役割の情報を倭庶務担当まで送ってほしい。各委員の仕事内容が蓄積されることが大切であると郷会長、桑島委員より指摘された。

11. 賞・助成金推薦について (郷) 資料8

生物物理学会は学会から賞を出していないので、財団等の賞に積極的に推薦していることが郷会長より説明された。各賞の説明および生物物理学会の賞・助成金推薦委員会顧問の説明がなされた。

12. 学術会議公開講演会について (郷)

生化学研連、分子生物學研連、生物物理學研連の3研連3学会合同で「ゲノム科学の課題と統合的研究推進のための共同体制を考える」シンポジウムが2000年2月4日に開催される。ポスターを200部配布している。学術会議50周年記念の行事であると同時に研連合同の試みである。

議題：

1. 次期編集実行委員の選出 (石渡) 資料9

今回は平成12、13年編集実行委員7名および平成12、13年編集実行地区委員の改選であることが石渡編集実行委員長より説明された。新委員候補の選出には若手、女性、分野、所属を考慮したことが資料をもとに説明された。片岡委員より、姫路工大は中国地区ではなく、関西地区であると指摘され、次回から訂正することになった。提案通り平成12、13年新編集実行委員は承認された。石渡委員長より、委員の推薦が少なかったこと、委員長に東京近辺の方が継続していることが問題であると指摘された。推薦が少なかったのは運営委員の責任であり、会誌の編集が好きな方を発掘する必要があると郷会長より指摘された。委員長については、石渡委員長より、東京近郊の以外の方でも経済的に許されれば（東京出張費）、可能であることが指摘された。

2. 平成12年度分野別専門委員の決定 (難波) 資料10

難波委員よりメールで前もって配られていた資料にもとづき、今回の分野別専門委員案が提案された。分野別専門委員の役割はシンポジウムのオーガナイズと会誌の掲載記事の査読などである。去年は171分野に委員を当てた。今回、年会で作成したキーワードを整理したところ、分野が218件にもなり、それらを125件に絞った。委員は得票数の多い方、発表の多い方を考慮した。新設の分野について、特に1)「意識」という分野はこれから確立する分野、2)「構造ゲノム科学」は活動としては大きくなっているので項目とする必要がある分野と考えた。若い人を入れるべきであること、重任を避けることが各

委員より指摘されたが、今回の案でも重任が多くならざるを得なかった。今回の分野別専門委員案は承認された。ただし、一人非会員の方が委員案にあげられていることが難波委員より指摘され、入会を依頼することになった。会員になっていただけない場合は、別の方を委員とする。

3. 平成13・14年度学会委員の候補者推薦について (倭) 資料11

平成13・14年度学会委員の候補者推薦の学会誌掲載文が説明された。推薦者を増やすために（前回8名）料金受取人払いの封筒を添付する予定。郷会長より候補者推薦締め切り日に曜日（木曜日）を入れるよう指摘があった。七田副会長より正会員による選挙締切は「締切日は3号でお知らせします」と掲載した方がよいことが指摘された。片岡委員より、正会員に学生会員が入るのかどうか疑問が投げられ、郷会長より含まれることが指摘され、桑島委員より「正会員（学生会員を含む）」と掲載した方がよいと指摘された。以上の修正をもって掲載文は承認された。難波委員より会員全員にメールで送れないかと提案され、市川平成11年度年会実行委員長より、ほとんどの会員には届くEmailアドレスのリストは事務センターから7万5千円で手に入れていることがコメントされた。しかし500人ぐらいの会員がEmailアドレスを持っていないことが市川委員より、および専用のサーバーが必要であることが木寺委員より指摘され、現実的には難しいことと判断された。

4. 40周年記念企画について (片岡) 資料12

片岡委員より40周年記念企画の提案がなされた。資料にもとづき1)講演会、2)高校生向け生物物理学紹介パンフレットの作成、および3)ブルーバックス「生物物理学の最前線」の続編が提案された。2)については、アメリカの生物物理学会のパンフレットが紹介された。B5の3つ折りならば、費用は3000部で約35万円となる。理科離れに対する生物物理学会からの提言、および高校生に対する情報発信（生物物理学を学ぶために何を履修すべきか、どういう気質が向いているか等）となる。各委員から高校生向け生物物理学紹介パンフレットの作成は支持を得、豊島、片岡両委員が、パンフレット作成小委員会を会長、副会長および数名の委員で設立することが決まった。3)の「生物物理学の最前線」の続編も各委員の支持を得、郷会長の任期期間内に発行する

ことで東京農工大美宅会員に企画をお願いすることが決まった。なお豊島委員の美宅会員への打診によると、今回は10人ぐらいの執筆者にしたいとの要望があるとコメントされた。

5. 学会主催講習会の企画について (片岡) 資料12

片岡委員より企業向けの技術講習会の開催が提案された。「タンパク質立体構造の構築原理」の特定領域研究が行っていたコンピュータ講習会を生物物理学会で継続的に行うのはどうか。大学関係者の参加費は安く設定し、非会員を高く設定すれば会員を増やすこともできる。木寺委員より上記特定領域研究が行っていたコンピュータ講習会の説明があり、1回目から4回目まで参加者は減らず、毎年多くの方の参加を断っていたこと、およびお金をとって行う場合、使わせて頂いた東京農工大は使えなくなることが補足された。講習会のテキストを生物物理学会が販売する案が示された。場所の問題は、うまくやれば大学でも可能であることが月原委員よりコメントされ、市川平成11年会実行委員長より理研(皿井会員)ならば、たぶん問題なく利用できることがコメントされた。片岡、豊島、木寺各委員で具体的な方策をつめてもらうこととなった。

6. 物理学会春の年会・分科会の本学会との共催について (倭) 資料13

物理学会の年会において生体物理分科は共催となっているが、このことは2000年まで自動継続であったことが倭委員より説明された。物理学会年会の運営方法が変わってきており、生体物理と化学物理と高分子が領域12に統合され、**昨年の春からは領域12の生物に関わる分野に生物物理学会員ならば参加できる形になっている**。この形態を維持することが提案された。会長名で適当な期限をつけて物理学会会長佐藤氏に依頼すれば、共催の可能性は大きいことがコメントされ、共催継続は承認された。会誌に春の物理学会開催を掲載すべきであることが提案された。掲載が間に合わない場合は生物物理学会のホームページに載せ、すくなくとも会誌には締め切りがいつ頃だからホームページを見るようにと記載することになった。

7. 広告料収入の分配方法の変更について (船津) 資料14

・上記議題に入る前に豊島委員より広告取りのキャンペーンを行うことが報告

された。パンフレットを作って会長名の文書をつけ、会員を通して企業に配っていただく形式（４年前に木下現副会長が行った方法）でおこなう。

・船津委員より現在の分配方法の問題点が指摘され、新案として２０００年１月（Vol 40, No.1)から、エー・イー企画の取り分が一律３０％、学会の取り分が一律７０％が提案された。この変更を行えば、９９年の広告収入の場合には、６９４万９２００円が７１５万８２００円になる。エー・イー企画からはすでに了承を得ている。また年会の広告はこの提案とは無関係であることが補足された。上記案で承認され、文書の覚書きをエー・イー企画と生物物理学会との間で取り交わすことになった。

８．平成１２年度年会シンポジウムについて （田之倉） 資料 1 5

資料にもとづき年会のシンポジウムの件数、およびシンポジウムの受付先（一般会員は大木年会実行委員長、分野別専門委員などの委員からは田之倉委員）が説明された。郷会長より、この場で具体的なシンポジウムの中身を検討する予定であったことが指摘され、田之倉委員に締切を１２月２０日に設定してシンポジウム案を集めるように依頼があった。締切後に運営委員の間で Email 上の議論行うことになった。シンポジウムの数について検討され、提案のままで会場が半分空席になる可能性があることが指摘され、専門シンポジウムは６件、ミニシンポジウムを５件とする事になった。４０周年記念講演を行う場合は大きな会場が必要であることが阿久津委員より指摘され、大木年会実行委員長より前日を利用することが提案された。前日、９月１０日（日）の夕刻に、別途に広い会場を用意して「一般シンポジウム（４０周年記念シンポジウム）」を開催することとした。

９．年会発表申込のための分野の分類表について （田之倉） 資料 1 6

資料および過去の分類表にもとづき新分類表案が説明された。演題数、および関連する発表が同時に行われるのを防ぐことを考え、平成１０年度（九州大学）年会の分類表を参考にして作ったことが説明された。郷会長より演題数が多いことにとらわれて分類をつくることはふさわしくないこと、および分類は学会の顔になるので細かく網羅的にした方がよいことが発言された。桑島委員

より蛋白質の構造機能相関と蛋白質の機能の区別がつかないこと、および蛋白質内に計測解析の方法が必要かどうかの疑問が示された。阿久津委員よりヘム蛋白質の項目は生物物理の伝統であることが指摘された。木下副会長より分類表は細かい方がよいのではないかと提案があり、片岡委員より申し込み後に分野別専門委員に、細かい分類からどの分野を統合できるかを問い合わせればよいことが提案された。太和田支部長および市川平成11年度年会実行委員長から細かい分類の場合にはプログラムの割り振りがかえって難しくなる可能性があることが指摘された。郷会長より田之倉委員に分類表の再検討が提案され、運営委員の間でEmail上で議論することになった。

10. 学会誌のオンライン化（準備状況と必要経費）（石渡）

資料17

石渡編集実行委員長より、資料にもとづき説明がなされた。JSTの推進するJ-STAGEシステムにのって2000年6月号（3号）からのオンライン化（雑誌の発行および電子出版）が提案された。このシステムを利用すると校正、入稿もオンラインで可能となる。入稿から出版までの過程をリアライズ社に委託するため、リアライズ社に専用のハードウェア、ソフトウェアが必要であり、資料の概算（追加としてMS OFFICE 2000（約14万円））に示すとおり約226万円が必要となることが説明された。最初のオンライン版は非公開とし出来映えを見る。次の号からは公開する予定。執筆者はMS Wordのテンプレートを用いて入稿することになる。郷会長よりオンライン化は運営委員会決定事項であることが説明された。郷会長よりオンライン化による編集作業の変化が質問され、石渡委員長より、編集作業の簡素化と人件費の軽減が見込まれると回答があった。石渡委員長よりハードウェアをリアライズ社に置くことに関してどのように思われるか意見を求められ、桑島委員および阿久津委員より、生物物理学会の備品であること、および生物物理学会の編集作業に対し優先的に用いることを覚書として交わす必要があることが指摘された。豊島委員よりリアライズ社の姿勢に対して質問があり、石渡委員長より積極的であるとの回答があった。大木年会実行委員長より年会要旨の取り扱いの可能性が質問され、石渡委員長より、J-STAGEはオリジナルジャーナルのフォーマット（2段組）しか持っていないため年会要旨には対応できないと回答がなされた。由良委員よりハードウェアはレンタルでもよいのではないかと質問があり、石渡委員長より、

コストはほとんど変わらないと説明がなされた。難波委員よりオンラインジャーナルの閲覧範囲を限定する理由についての質問があり、会員数の減少を防ぐためと、著作権の問題があるためとそれぞれ郷会長と片岡委員から説明がなされた。郷会長より、11年度年会の黒字約60万円分をオンライン化の費用に用いることが提案された。学会の財政基盤を桑島経理担当委員に確認してもらい、問題がなければ郷会長の最終判断で実行に移すことが承認された。

1 1. 支部活動について (郷)

各支部長が運営委員会に参加する際に、松本前会長の時から旅費を出すようになったことが郷会長より説明された。本年度も財政にゆとりがあれば旅費を出したいが、本年度年会の際に運営委員会の費用が赤字になったことが報告されている。経理担当委員に財政を確認してもらいたいと提案された。同時に支部活動の活発化を明確にして、運営委員会に参加してもらいたいと提案された。太和田九州支部長は、学会運営の議論が支部に伝わるためにも旅費支出を継続してもらいたいと発言された。大木年会実行委員長より、東北支部の場合は支部内で運動をして支部から学会委員を出し、運営委員の選挙の際に演説をして、運営委員を出していることが説明された。郷会長より、年会のためにも地方との連絡は重要であるので、旅費を出したいと思っていることがコメントされ、財政状況を調べてから結論を出すことになった。

1 2. 生物科学研連合同主催の可能性に関連して (郷) 資料 1 8

郷会長より資料にもとづき上記事項が説明された。年に2回くらい東京で行われる生物関係研連合同会議の旅費の負担が具体的な要求事項である。桑島委員よりどの研連が合同するのかが質問され、生物物理、分子生物、細胞生物、遺伝学を含む6研連であることが説明された。旅費の負担をすることが承認された。

1 3. 第18期日本学術会議会員候補者推薦について (郷) 資料 1 9

生物物理学会は学術会議会員の推薦権を持たない学会であり、今まで物理学会と分子生物学会に推薦人を送っていたことが郷会長より説明された。物理学会は5人の会員候補を出すことができ、現在生物物理から推薦した和田氏が会

員になっている。今回は伏見氏を推薦人として郷信広氏を会員候補として物理学会に推薦する。郷会長が会長経験者、副会長と相談した結果、分子生物学会には、阿久津氏を推薦人として京極氏を会員候補者とすることが提案された。上記推薦について承認された。なお学術会議の会員選考方式を透明にする必要があることが議論されている。このことを知るために資料が配布された。女性科学者の会員数を増やすことが大切な問題だと指摘された。

14. 学会ロゴマーク選定について (郷)

生物物理学会のロゴマークを会員に募集したことが説明された。現在6件の応募作品がある。会長、副会長、庶務、編集実行委員長から構成される選定小委員会を設置して選考することが郷会長より提案され承認された。

連絡事項：

次回以降の運営委員会は、第3回運営委員会は4月1日(土) 13:00から、第4回運営委員会は7月1日(土) 13:00から、第5回運営委員会は9月11日(月) 昼(年会中)、平成13年度第1回運営委員会は9月13日(水) 昼(年会中)に行う。